大阪・サンパウロ姉妹都市協会ニュースレター第２号

大阪・サンパウロ姉妹都市協会の会員の皆様に、当協会の活動状況や連載コラム、ブラジル関連の最新のニュースなどホットな話題をお届けします。

● 新連載！コラム　Global Public を考える～「内なる国際化」を展望する～（1）

今号から、当協会理事の林田雅至氏 (大阪大学教授・洪庵塾実施責任者) のコラムを連載いたします。
参照：「洪庵塾 International Resources」http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/activity/view/565

2009 年 3 月大阪大学と部局間協定を結ぶサンティアゴ･デ･コンポステラ大学を訪問し、交流事業の推進、熊野古道との異宗教巡礼姉妹道でもあるカトリック巡礼地のメッカ・コンポステラにかかわる観光事業の活性化を議論したが、中世城塞都市周辺に広がる労働者層住宅街で出会ったブラジル少年 11 歳 (当時)，第一使用言語はスペイン語で、東洋系の顔立ちの林田を見て「日系ブラジル人」と声を掛けられるほどに，彼はポルトガル語ができなかった。父親がイタリア系の縁か、EU 労働市場を求めて 4 年ほど前にサンティアゴに住み着いたらしい。リーマンショック以降音信不通となり、残念である。高緯度の枝垂れ桜の色は濃い目，きりりと引き締まった美観の虜となる。入管法改正から 20 年を経て、グローバル市場原理主義に翻弄された日系ブラジル人に日本国内における年金問題の混乱の中から、有利に働いたことは、年金受給年齢の積算が両国間で双方向的に流用可能となったことであった。けれども、この 20 年間で日本経済浮沈の荒波に揉まれたのは日系の子どもたちかもしれない。

本年 7 月初旬、鉄道資本主義開発の鑑とされる、阪急電鉄敷設による住宅街及びレジャーランド開発と宝塚少女歌劇団を生んだ聖地宝塚で、外国籍住民が 1.5% を占め、日系ブラジル人に至っては 0.15%という圧倒的な少数派の 14 歳の少女が、家庭環境の酷似する日本人少女とともに、自己破壊的に両家に放火しようと企み、日系人家庭の生みの母を焼死させ、7 歳の折、再婚した母から誕生した義妹と継父は重体となった。ただ、義妹が惜しみない愛情 (母語) を注いで育てられる 4 歳までの 5 年間、彼女は 11 歳に至って第一使用言語 (≒母語) が確立され る公立小学校において、生活日本語は流暢であっても、学習日本語 (≒第一使用言語) は未熟であった。家庭内で母語が育まれたかは疑問である。従って、彼女にとって十分な第一使用言語は母語でもなく、また生活・学習日本語でもなかったかもしれない。かりに所謂ダブルリミテッドであったとすれば、これほどに気の毒なことはなかったのである。(次号に続く)

● 略歴：林田 雅至 氏 ●
1979 年東京外国語大学卒。2007 年より大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授。専攻はポルトガル語圏文学・文化、宗教民俗学等。言語を通じて多民族国家ブラジルの豊かな文化にも精通し、近年は我が国の日系ブラジル人の増加などにかかわる社会問題をめぐる「地域多文化共生」「内なる国際化」にも着目、医療通訳や災害時の外国人支援などにも関わる。2004 年大阪国際交流センターで連続セミナー「多彩な異文化大国ブラジル」や 2008 年ワン・ワールド・フェスティバルにおける「異文化大国ブラジルに挑戦する 21 世紀日本の『内なる国際化』」などをコーディネート。大阪サンパウロ姉妹都市協会理事。

● こんな共通点も！

8月7日(土)、大阪国際交流センターにおいて『生物多様性シンポジウム―いきものと暮らすことが楽しくなるまち、大阪』が開催されました。

基調講演で天王寺動物園名誉園長の宮下実さんは、世界的なミツバチの減少に警鐘を鳴らし、小さな昆虫に頼るのは実は人間だという、怖い話です。蜜でなく農薬に滅んだミツバチによる受粉がなければ、草木に実がならず、キュウリやスイカもできず、食べられなくなると説かれました。また増え続けるシカによる農作物への被害は、シカを捕食する日本オオカミを絶滅に追いやった森林開発が一因だと、動物園の話と思いきや、野生生物とともに人間が生きていく地球環境についての一説。日ごろ無関心な編集子も目からウロコの話ばかり。大阪市に唯一生息？するホッキョクグマの『ゴーゴ』の仲間たちは、2度の温度上昇により生存が危ぶまれると聞いては、会員の皆様にもエコ対策の必要性をお伝えしなければという次第。なぜなら、大阪に住む私たちは、エアコンの温度を2度上げても少々暑いと感じるだけなのに、北極圏の摂氏1度と氷点下1度の差は水か氷の境界線。氷の穴から顔を出すアザラシを追うホッキョクグマは、凍らない海で今日も飢えに苦しんでいるのですから。

サンパウロ動物園は、面積824.529平方メートル。天王寺動物園(110,000平方メートル)の約75倍の広さです。たとえ広さは違っても、動物を愛でる優しい心、保護しようという強い心根、快適な環境で育てようというたくましい心意気は、今も昔も変わらないと言えるでしょう。

● 兵庫県立美術館においてコレクション展II「ブラジル日系人画家の系譜」が開催！

まだまだ残暑厳しい折ですが、早朝のセミの声はいつのまにか聞こえなくなり、晩にはコオロギの鳴き声らしきものが聞こえてきて、自然はだんだんと秋が近づいてきていることを感じさせてくれます。さて、秋と言えば、食と芸術！今回は、兵庫県立美術館で開催されているコレクション展II「ブラジル日系人画家の系譜」についての情報をお伝えします。

兵庫県立美術館では、常設展示室において、この一年間に新たに収蔵された作品（購入寄贈を併せて114点）をコレクション展II 特集1「新収蔵品から見た現代」、特集2「ブラジル日系人画家の系譜」として紹介しています。これまでの兵庫ゆかりの作家を中心とした現代作家の作品の収蔵に加えて、今回特筆すべきは、2008年のブラジル移民100周年を記念して、サンパウロ在住のコレクター、リカルド・タケシ・赤川氏より寄贈を受けたブラジル日系人画家の作品群です。

100年の歴史の移民者たちの中で絵画を志した日系人たちの作品からは、その生活、思考が伝わってきます。日系人画家のまとまったコレクションとしては、サンパウロ州立美術館にせまる質と数で、これまで日本国内で紹介されていない画家たちを含めその動向が紹介されています。

■会　　期　2010年7月17日（土）－11月7日（日）
■会　　場　兵庫県立美術館　常設展示室
■休 館 日　月曜日（ただし、7月19日、9月20日、10月11日は開館、翌火曜日は休館）
■開館時間　10:00～18:00　※入場は閉館の30分前まで
■観覧料金　一般500円／大学生400円／高校生250円／中学生以下無料
※各種割引料金、特別展料金については、美術館にお問合せください。

●赤川コレクションとは？●

サンパウロ在住の日系二世リカルド・タケシ・赤川氏は、旅行会社ツニブラトラベル（TUNIBRA TRAVEL CO.,LTD.）の社長です。美術品コレクターとしても著名でブラジル人作家をはじめ世界の現代美術の最先端の作品がコレクションされています。

2008年に神戸旧移民センターを訪れた赤川氏は、かつて祖父が出港した神戸の地に彼の所有するブラジル日系人画家の作品を寄贈する決意をされました。現在日本で働く日系ブラジル人たちに、先人たちの業績を広く知ってもらうことを願って、兵庫県立美術館に65点の作品が寄贈されました。今回の展示では、それらから45点が紹介されます。

【2010年コレクション展II関連 イベント情報】　講演会「ブラジル美術の中の日系人画家」

長年、ブラジルの美術を紹介してきた金澤氏による日系人画家全般についてのレクチャー。今年開催のサンパウロ・ビエンナーレの最新情報も紹介されます。

■開催日時　2010年10月31日(日)　14：00～15：30　■講師：金澤毅（美術評論家・成安造形大学名誉教授）
■場所　兵庫県立美術館レクチャールーム　■定員：100名　■聴講　無料（要観覧券、事前申込は不要）

●ご感想をお聞かせください。ニュースレターの配信停止を希望される方は下記連絡先までご連絡ください。●

(財)大阪国際交流センター　情報企画部内　姉妹都市協会担当
メール：sistec@ih-osaka.or.jp　電話：06-6772-9670　FAX：06-6772-9790